

IBM System i (AS/400) 運用監視ツール

システムの異常を早期に検知して通知する事を実現します。



e-Alertは、システムの運用監視ツールです。システムの異常を早期に検知して通知します。

例えばBATCH処理が正常に終了したか？という監視は、システム担当者が画面を使用してWRKACTJOBからサーチして目的のJOBが正常に動作しているかを確認して、問題があればJOBLOG等を別途調査する必要があります。

ここで問題は日中であれば担当者が常駐しているのでシステム運用も容易だが、一般的にBATCHは夜間に処理している場合が多く、もし夜間にJOBがMSGWになった場合は、正常に処理が終了していないので、翌日の業務に大きな影響が出ます。

e-Alertは、こうした問題を解決するツールです。システム監視する項目はCPU、SBS、JOB、RUN、STS、LIN、CTL、DEV、TCP項目等で、事前登録した監視項目の、LCKWやMSGW等のエラー状態を、WRKACTJOBからサーチしてアラート発生させます。

アラート発生時のSMTP登録を事前に行えば、登録されたメールアドレスにアラート内容を送信する事が可能。

つまり画面監視とメール通信により、エラーを担当者に自動通知する仕組みです。

システム担当者が常駐監視してない時の運用リスクを減らす事が可能。

つまりアラート発生時点が問題判別開始のトリガーとなります。

■ SYSTEM監視

システムのエラーを監視して、アラートを発生させます。このアラートをN-Mail400の基幹が登録済みE-mailアドレス宛にエラー内容を通知します。

■ 監視例

CPUの95%以上の連続使用

LIN資源、CTL資源、DEV資源のエラー(回復保留等)

DISKの100%FULL使用

規定時間に指定PGMが実行されたか？

TCP/IP上でのPINGは成功しているか？(ハードビート機能)

監視JOBがMSGWやLCKWで停止していないか？

例えば、上記内容で監視して、事象によりアラートを発生させる事ができます。

監視項目は事前登録ですが、実行時に監視ファイルに書き込むと、その時点から監視対象となります。個別のSBS(E_ALERT)内部で監視処理が独立します。

※e-Alertは全ソース付きなので、カスタマイズして使用する事が可能です。

既存System i (AS/400)

既存メールServer



登録済み

E-mailアドレス宛

TO、CC、BCC可能



TO: 担当者
CC: 責任者



アラートが発生した場合に、SMTP項目に登録されているメールアドレス個別または同時にLOG内容をメール送信します。



■ Alert受信メールサンプル

=====
このメールはAS400アラート監視で自動送信されました。
=====

エラー監視ログ明細

レベル : 70
管理種別 : JOB
管理枝番 : 001
管理項目 : NMAIL400
エラーCD : MSGW
状況 : 異常状態
作成日 : 2010/11/19
作成時刻 : 15:17:50
対応者CD :
ユーザ業務番号 : 000000000000190
表示内容 : メール受信で異常になりました
監視開始時間 : 99:99:99
監視終了時間 : 99:99:99

SMTP グループ : 000001
処理フラグ : 9
画面フラグ : 9
ユーザMSG1 :
NMAIL400 / メール受信で異常になりました
ユーザMSG2 :
*ERROR-JOB WRKACTJOB SBS(XXXXXX) で調査可能です。
ジョブ名 : NMAIL400
ユーザー名 : QSECOFR
ジョブ番号 : 001145
ジョブタイプ : BCH
プール番号 : 2
プライオリティ : 50
CPU% : 0
機能PGM名 : PGM-POPCHKC2
作成PGM名 : AL00150R
作成JOB : *LIBL
作成ユーザー : QSECOFR
作成年月日 : 2010/11/19
作成時刻 : 15:17:50

